

発議案第28号

塚本路明議員に対する問責決議について

上記の発議案を別紙のとおり会議規則第14条第1項の規定により提出します。

令和2年9月15日

八千代市議会議長 木下映実様

提出者	八千代市議会議員	植田進
賛成者	八千代市議会議員	伊原忠
	同	堀口明子
	同	飯川英樹
	同	三田登
	同	菅野文男

提案理由

塚本路明議員に対して猛省を促すとともに、議員としての自覚ある行動を強く求める。

これが、本案を提出する理由である。

塚本路明議員に対する問責決議

令和2年9月3日、代表質問に立った塚本路明議員は、「質問時間の大幅な短縮、特に質問者の削減について提案してきたが、取り上げてもらえず、結果的に3日間にわたり15人もの質問者ということになってしまい、少しでも感染リスクを下げるためにも、会派として今回の質問は中止とし」と述べ、質問を取り下げた。

質問の取下げ自体は、それぞれの会派や個人が決めるものであり、議会が干渉すべきことではない。

しかし、新型コロナウイルスの感染拡大の下、いかにして感染拡大を防止するのか、新型コロナウイルスによって影響を受けている市民の暮らしやなりわいをどのように守っていくのか、正に市民の安全・安心を確保するために行政をチェックする重要な機会が、議会での質問であると考えられる。

さらに、議会開会中は、感染拡大防止の観点から、「3密」を防ぐために議員及び説明員の出席を抑制するなどの工夫がされたところであるにもかかわらず、「結果的に3日間にわたり15人もの質問者」となったので質問を取り下げるとの塚本路明議員の発言は、他の質問者への干渉と言わざるを得ない。

塚本路明議員は会派の代表者であり、議会運営委員でもある。質問者が多数となっていたことは事前に承知していたのであるから、その段階で取り下げることは可能であった。しかも、新型コロナウイルスの感染が心配だと言いながら、長時間職員を拘束して質問確認を行っていた。

以上、今回の質問取下げに至る経過は、議会を混乱させただけでなく、他の質問者への冒とくである。

よって、本市議会は、塚本路明議員に対して猛省を促すとともに、議員としての自覚ある行動を強く求めるものである。

以上、決議する。

令和2年9月28日